

マーケットの動き（2024年12月9日～12月13日）

先週の為替市場は、前週末比で米ドルは対円で上昇（円安）しました。週初は、中国共産党指導部が中央政治局会議で2025年に金融緩和と財政支出の拡大を進める方針を示したことで中国景気への懸念が後退し円は売られました。その後も、米国長期金利の上昇や日銀が金融政策決定会合で追加利上げを見送るとの見方から、日米金利差が意識され円売り・米ドル買いが優勢でした。ユーロは前週末比、対円で上昇した一方、対米ドルでは下落しました。

投資環境見通し（2024年12月）

円に対して米ドルはレンジ内で強含み、ユーロはやや弱含み

米ドル：日銀による利上げ観測が広がるものの、底堅い米国景気やFRB（米国連邦準備制度理事会）が利下げペースを減速するとの見方を背景に、ドルは円に対してレンジ内で強含みで推移するとみています。

ユーロ：域内景気の弱さを背景とした、ECB（欧州中央銀行）による追加利下げ観測に加え、日銀による利上げ観測もあり、ユーロは円に対してやや弱含みで推移するとみています。

	12月13日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	153.69	3.80	▲1.34	▲3.24	8.53
ユーロ/円	161.20	2.86	▲2.96	▲7.83	4.51

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202412_outlook.pdf

為替レートの推移（対日本円）



為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>